

徳島阿波おどり空港将来ビジョン 概要(案) 資料 1

徳島阿波おどり空港は、徳島県の「空の玄関口」として、地域の暮らしや交流を支え、観光やビジネスなどの経済活動に必要な拠点施設である。このような中、令和6年11月には、県政史上初となる国際定期便が就航し、「新たな人の流れ」や「ニーズ」が多様化するなど、空港の取り巻く環境は大きく変化している。

今後、徳島県の持続的発展を牽引する「開かれた空港」となるよう、空港の目指すべき将来像を明確にし、「今後の取組の方向性」や「将来像の実現に向けた進め方」について取りまとめた。

新時代へ躍り出す、世界に開かれた空港



< 3つの柱 >

1. 本県地域経済の発展や豊かな生活を支える国内外を繋ぐ観光・ビジネスや地域の「広域交通ネットワーク拠点」
2. “人・食・物産・イベント”等の施設機能を新次元のアップグレードを図り、空港の魅力が最大化された徳島のにぎわう「交流・発信拠点」
3. 旅行者のニーズにきめ細かに対応できるよう、多様な交通モードとの連携等で利便性が向上した「広域周遊観光拠点」

1. 航空ネットワークの維持・拡充

○既存路線の利用促進

- 短 国内誘客プロモーションの強化
- 短 国際定期便の定着と増便を見据えた利用促進施策の展開
- 短 徳島発便の利用促進施策の展開
 - ・羽田乗継による誘客強化
 - ・リピーター増加に向けた取組
 - ・他空港や近隣県との連携強化

○新規路線の誘致

- 短 利用者アンケート結果や近隣空港の就航状況等を踏まえた戦略的な路線誘致
 - ・LCC誘致による需要の拡大

○受入体制の強化

- 短 グランドハンドリング等の充実
 - ・共用空港としての自衛隊との連携

2. 空港施設の機能強化・魅力向上

○空港の魅力最大化に向けた取組

- 短 県産品や空港限定商品等の物販の充実
- 短 来県者への効果的な情報発信
- 短 航空機を利用しない人も行きたくなるようなコンテンツづくり
 - ・徳島らしさを感じられる飲食の充実

○空港の機能強化

- 短 利用者目線によるロビー等の配置適正化
- 短 国内外からの観光・ビジネス利用者に対する利便性の向上
 - ・将来的な利用者増加を見据えた空港ビル施設の増築
 - ・航空貨物の利用促進

○リスクマネジメント力強化

- ・災害時等のリスク対応力の強化

3. 二次交通・利便性向上

○二次交通の充実

- 短 空港から主要観光地等へのアクセス向上
- 短 インバウンド客への対応強化
 - ・周辺県との広域連携
 - ・レンタカー・カーシェアニーズの対応
 - ・交通DXの推進

○駐車場の利便性向上

- 短 利用者増加を見据えた区画拡張や立体駐車場化などの利便性向上の検討
 - ・関係機関が一体となった利用促進に向けたキャンペーン等の実施

○誘導サイン・乗り場の利便性向上

- 短 案内表示の視認性向上や動線の見直し
 - ・バス・タクシー・送迎車両等の円滑な導線確保

将来像の実現に向けた
今後の進め方

各施設の一体化に向けた
民間活力導入手法の検討

県全体の
機運醸成

関係団体との
連携強化